

これ人に遇うなり

開基家

村岡 有 尚



先代社長が、当時大本山総持寺で修行中の黒田方丈にはじめてお会いしたのは、今から二十年前のことです。

一道元様は、天童如浄禅師にめぐり会って、「まのあたり先師をみる、これ人にあうなり」と感激しておられますが、先代は弱冠二十五歳の黒田武志師を一見して、「これ人に会うなり」の感を深め、その人柄に傾倒し、必ず大成する人物として将来を嘱望されたのであります。先代の眼に狂いはなく、その後黒田師はタイ・インド、そしてアメリカで修行を積み、帰国早々当寺を開創され、ゼロから出発して僅々十五年にして今日の盛栄を招来されたのであります。

今年は何よりも先代の七回忌に当りますが、モラロジューを心の糧とし、人心救済を念願として仏様に帰依した先代だけに、今日のこの盛儀をどんなにか喜んでおられることでしょう。

開創十五周年にして当善光寺は磐石不動のものとなりました。これからは、釈迦殿及び不動殿を中心として正しい仏法を弘通し、人心救済、心華開発にさらに一段の御精進をお願いして、開基家の祝辞といたします。